

いのちの言の葉2014

富山県教育委員会平成26年度いのちの教育総合支援事業

「見つめよう！輝かせよう！わたしたちの命」

射水市立放生津小学校 5 学年
平成26年11月20日実施

【いのちの先生】

永井 友恵先生

・世界移植者スポーツ大会出場

(保護者より)

四人兄弟でけんかをするといつも口癖が「死ぬ」と言いますね。あなたも生後四日目で重い黄疸になり、生きるか死ぬか50-50と先生に言われたときは、泣きながら「私の血液を上げてください…」とまで先生に頼んだんだよ。あのときの胸に刺さる思いが今でも思い出されます。そのことを忘れないで、人に接してってください。こんなに元気に成長してくれたことに今は感謝しているよ。ありがとう。



(保護者へ)

今日は永井友恵さんに命の授業をしていただきました。永井さんは29才の時に肝臓の病気になられて、医者からは90%以上の確率で死ぬかもしれないと言われたそうです。だから弟の肝臓の一部を移植してもらって、成功して「命をいただいた。」と言っておられました。そのときお母さんは「二人ともダメでもそのときはそのときです。」と言っておられたのを聞いて、私はどきどきしました。でも今は、弟さんも元気に家庭をもっておられると聞いて安心しました。私は永井さんの話を聞いて、これからの毎日を大切に生きていこうと思いました。

(保護者へ)

永井さんの話を聞いて思ったことは、何をするにしても結果が大事なのではなく、挑戦したという勇気が大切だということです。また、自分は一人で生きているのではなく、周りの人に支えてもらって生きているので、周りの人に感謝の気持ちをもたなければいけないと思いました。



(保護者より)

何かに挑戦するときには、どのように何に対してがんばったかという過程が大事です。それに結果はついてきます。何もしないで、未来を否定してはだめです。人は決して一人では生きていけません。周りの助けがあってこそです。人に感謝する気持ちを忘れずに、毎日を過ごしましょう。